『登録10年の取り組み報告⑩ 日本のユネスコエコパーク』

現在、日本国内では10地域がユネスコエコパーク（以下BR）に登録されています。まず、1980年に志賀高原、白山、大台ヶ原・大峯山、屋久島の4つの地域が指定され、2012年に綾が5番目の地域として指定を受けています。その後は、2014年に只見と南アルプス、2017年に祖母・傾・大崩とみなかみ、2019年に甲武信が追加されました。

最初の4地域のBR登録は国が主体となって登録したため、その存在はほとんど知られていませんでした。そこで、2010年に日本ユネスコエコパークのネットワーク（J-BR-net）が設立されました。しかしながら、国内の研究者による情報交換程度しか行われていませんでした。

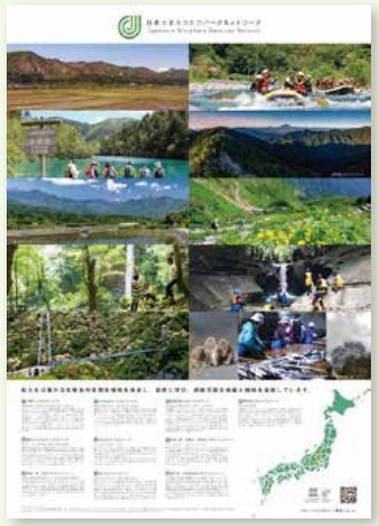
2012年に地元主導の申請により綾町がBR登録を果たしたことをきっかけに、国内においてBR登録の動きが活発になりました。そこで2013年に、BR登録を目指していた只見で初の日本ユネスコエコパークネットワーク会議が開催されました。

この会議は、国内におけるBR関係者が初めて一同に会す機会となり、翌年に只見と南アルプスの2地域が登録されたことで、さらに活動が活発化。白山において2回目のネットワーク会議が開かれた際には、BR関係者と研究者が「BRの運営主体は誰で、誰がイニシアチブをとるのか」などを議論しました。

その結果、BR登録地域を中心としたネットワークの再編が進み、2015年に志賀高原で開催された3回目のネットワーク会議で名称をJBRNに変更。新たなパートナーシップが結ばれたのです。

JBRNでは、ひとつの地域では対処できないような課題への対応やBRの運営活用推進・情報の発信・収集にかかわる事業を連携して実施していくことなどが目的として掲げられました。年間の主な活動としては、総会・大会の開催や運営ワーキングの実施、現地視察のほか、広報活動としてロゴマークやウェブサイトの作成、啓発資材（ポスター、パネル、エコバッグ）の作成などが挙げられます。また、こども霞が関見学デーやユネスコスクール全国大会といったイベントへの参加も行ってきました。

さらに、イオン環境財団と協定を結び系列店舗でのBRフェアやJBRN動画の作成なども行っています。東アジアや東南アジアなどの国際的なBRネットワークへの参加も定期的に行っており、ネットワークを通じた人と人との出会いと国内外でのパートナーシップが、日本全体のBRの活動促進につながっていくことを期待しています。



JBRNの運営体制（2018～2020年は綾町が事務局を担当）

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター
☎77-3482　URL https://ayabrcenter.jp　※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

ムラの肖像

1996年夏に撮影された、竹野のホルトノキ周辺の草払いのときのスナップ。このホルトノキは樹齢約350～400年で綾町唯一の国指定文化財です。木の根元近くには石碑があり、地区の長い歴史を象徴する存在でもあります。

住民の皆さんが集まってホルトノキ周辺の草払いに汗を流すのは年に1度の恒例行事で、大切な交流の機会にもなっていました。

現在、ホルトノキは老齢で傷んでしまっており、台風などで枝が折れることもしばしば。かつての姿はこうした写真でしか見ることができなくなってしまいました。

※令和2年から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から紹介します

column ニホンザル

地元では「山のあんちゃん」と呼ばれ、いろいろな意味で私たちに身近な動物です。

学習能力に優れ、複数頭からなる群れを作って生活しています。実はオスのボスザルが群れの中心ではなく、複数のメスのグループが群れを構成しています。

植物を中心とした雑食で、よく民家や畑に出没し作物を荒らすので、厄介な存在でもあります。味覚が発達していて、一度口にした食べ物の味は忘れず、場所や時期も正確に記憶するようです。森の中を移動しながら植物の果実を食べていることから、森のあちこちにタネをまく役割としても注目され始めています。生態系のバランス維持のためにも、上手に付き合っていきたい生き物です。